

国際学院新聞

第60号

(編集発行)

学校法人 国際学院

〒330-8548
さいたま市大宮区吉敷町2-5
TEL 048 (641) 7468
FAX 048 (641) 7432
インターネットホームページアドレス
<http://www.kgef.ac.jp/>

主なニュース

- 論説、KGブランドの確立に向けて、授業見学会 …… 2面
- 幼児絵画展・味彩コンテスト開催、実習報告 …… 3面
- IFW クラブ活動報告、芸術観賞会、検定試験 …… 4面
- 台湾の高校生が来校、スリランカ料理講習会、合宿 …… 5面
- 体育大会・体育祭、研修旅行、五峯祭 …… 6面
- 校友会活動、生徒会活動 …… 7面
- 卒業生メッセージ・近況報告、ベストブック …… 8面

フランス料理講習会開く

講師にM・O・Fのカバレロ先生

今年度のフランス料理講習会が、7月8日に実施された。

講師はジェラルド・ピエール・カバレロ先生。先生は1993年に、M・O・F（フランス国家最優秀職）が受賞したフランス人章）を受賞したフランスでもトップクラスの調理技術の持ち主である。

短大健康栄養学科調理製菓専攻の学生45名、高校調理師専攻の生徒85名、そのほか短大の卒業生やパレスホテル大宮の料理長などが受講した。



デモンストレーションでは、一つの皿の中に、基本的な技術、独創的な盛り付けのアイデアなど、さまざまな経験が盛り込まれていて、参加者はその一つひとつの調理技術や巧みな話

題、料理に対する情熱に何度も驚かされた。

また、カバレロ先生は日本語も堪能で、講習の中では通訳なしで世界各国の食文化に触れ「料理に国境はない」と語っていた。今回の料理の中には柚子など日本のお土産が使用されており、自国以外の食材についても精通していることを見せていただいた。

料理の世界で頂点を極めた先生の料理を間近に見ることは、料理を学んでいく学生にとって、調理する楽しさや料理の無限の可能性を感じるられるものであり、その意味でも充実した講習会となった。

照 敦

幕末から明治にかけて活躍した漢学者・中島撫山は、明治2年、現在の久喜市に居を移し、私塾「幸魂教舎（さきたまきようしや）」を開塾するなど地域の教育に尽力する。その孫が中島敦で、幼少期を同市で過ごし、撫山と共に市民の誇りと称えられている。▼文才に恵まれた中島敦は、東京大学卒業後、教員の傍ら小説を書き始めた。漢文調の格調高い文体は森鷗外の再来・第二の芥川龍之介と評される。▼没後、親交深い深田久弥が遺作に題名を付け発表したり全集の編纂が行われたりしたが、何となくとも、国語教科書に山月記が多く掲載されたこと

IFWを日本で初めて開催

7カ国から49人が来日

日本文化体験しつつ国際交流



インターナショナルフレンドシップウィーク（IFW）を国際学院中学校高等学校がホスト校となり10月29日～11月5日の間で開催し、7カ国から8校49人の生徒や教員が来日した。

IFWとは、ユネスコスクールが海外交流を深める機会を提供し、グローバルな視野で物事を考えることができる能力や、主体性やリーダー性を育成することを目的とした研修活動で、本校は2012年よりこの活動に参加している。

これまでIFWはヨーロッパ・アジアの諸地域で開催されたが、日本での開催はなく、本校が初となる。参加国は、デンマーク、スウェーデン、イタリア、マレーシア、インド、香港で、カナダ

のバンクーバーアイランド大学からBarbara Leslie教授が視察のために訪れ、日本を含め8カ国の生徒や教員が国際交流を行う絶好の機会となった。

外国の生徒や教員は代々木にある国立オリンピック青少年総合センターと伊奈町にある埼玉県民活動総合センターに宿泊し、本校大宮キャンパス、浅草・川越などで、日本文化に触れながら様々な国際交流を行った。

主な内容は、10月30日に浅草周辺散策及び雷おこしづくりの体験、31日には会場を本校伊奈キャンパスに移し、ウェルカムセレモニ

すべてのプログラムに共通することであるが、IFWは生徒同士の国際交流が最大の目標である。そのため、どの国の教員もあまり指示を行わず、温かく見守ることにしている。その結果、生徒は、自分たちでコミュニケーションをとりながら、様々な課題を乗り越えていくことで友情を深め、成長していくことになった。

IFWを終え、担当した

本校ESD推進室の島田哲弥主任は、「このような盛大な行事を無事に行うことが出来たのは、IFW運営委員をはじめとする本校生徒の活躍はもちろん、上智大学短期大学の学生や先生方、ホストファミリーの皆様などの協力のおかげです。心から感謝申し上げます」と語っていた。

(4面に続く)

学院創立記念行事を開催

12月6日 式典と新旧フィル公演

国際学院は本年12月に学院創立54周年を迎える。本学院では毎年12月に学院創立記念行事の取組みを行っており、この目的は、本学院の学生生徒と教職員との協働による創立記念行事の取り組みを通して、学院



第一部は本学院創設者である大野誠理事長・学院長の講話と短期大学・中学校

の歴史と伝統を継承し、未来に向かって大きく成長する機会とするものである。

平成29年度は12月6日、短期大学・中学校高等学校の学生生徒とその保護者、教職員などの学院関係者が参加して大宮ソニックシテ

イ大ホールで「国際学院創立記念式・公演会」として行われる。

第一部は本学院創設者である大野誠理事長・学院長の講話と短期大学・中学校

全大会で過去最高の成績

世界大会日本代表に姫野くん 射撃部

今年度の射撃部は、中学、高校ともに全国優勝を果たし、すべての大会において、過去最高の成績を上げることで、目標であった世界大会への出場も果たしている。主な戦績は以下のとおり。

全国ジュニアビームライフル射撃競技大会
中学女子の部で柳澤灯さんが優勝。

関東大会
ビームライフル女子団体戦で関根さん、渡部さん、千葉さんが優勝、個人戦で関根さんが優勝（大会新）、男子個人戦で姫野祐輝くんが優勝（大会新）。

全国大会
エアライフルの部で姫野くんが優勝（大会新）。

世界大会（東アジアユース大会）
姫野君が日本代表

表選手に選出され、日本チームは銀メダル、個人戦では6位に入賞。

JOCジュニアオリンピックカップ
エアライフルで姫野くんが準優勝、ビームライフルで渡部さんが準優勝。

第72回国民体育大会
12年連続21回目の出場。エアライフルで姫野くんが優勝。

今後においても、姫野くんと千葉さんがアジアエアガン大会に出場を決めており、射撃部の一層の活躍が期待されている。



6月の関東大会の表彰状と優勝カップを手にする射撃部の面々

目標は自立したアスリート

8年連続で高校総体出場 陸上競技部

陸上競技部は、6月に千葉県で開催された関東大会に出場し、女子走り高跳で、高谷千秋さんが5位に、女子4×400mリレーで小笠原遥さん、新井美鈴さん、大久保清楓さん、小林梨花さんのオーダーで6位とそれぞれ入賞を果たし、全国高校総体への出場を決め、連続出場記録を8年と更新した。

また、8月からは、3年生の引退により新チームとなり、9月に行われた埼玉県新人大会において、女子400mハードルで2年の小林梨花さんが優勝、女子4×100mリレーでは、村松裕梨さん、大久保清楓さん、小笠原遥さん、小林梨花さんのオーダーで優勝を果たし、関東選抜大会への出場権を獲得した。



4×100mのメンバー

新チームとして良いスタートを切ることができたが、まだ、課題は多く残されている。主体性を大切に、それぞれの課題に気づき、自らの意志で解決していくアスリートを目指したい。

免許状更新講習

8月9日、「子どもの動きや表現を引き出すダンス・身体表現の指導・援助を学ぶ」をテーマに免許状更新講習を幼児保育学科の古木准教授を講師に開講した。講習内容は、新旧幼稚園教育要領についての変更点やねらい、即興的・非即興的表現の特性や身体表現活動の指導・援助法、リズムダンスの創作方法や隊形

移動などで、受講者の学修成果も評価する。講習のまとめとして、VTR収録した受講者のパフォーマンスを映像で振り返った。

受講者である現職の幼稚園教諭からは、「動きを引き出すためのイメージを出し合ったことが、子どもたちと一緒に創作したり、子どもが動きのイメージをもつて踊ったりなど、意欲的な活動につながると感じた」等の感想が寄せられた。

KGブランドの確立に向けて

実効性ある改革推進へ

KGブランドの確立に向けた取組も2年目を迎えた。今、実効性ある改革の推進が求められている。

アクションプランの策定

現在、実効性を担保する行動指針として、「財務力強化に向けたアクションプラン」及び「教育力強化に向けたアクションプラン」の策定を進めている。財務判断指標の数値化を図り、その進捗管理が明確となるよう各年度の達成目標を明示することとしている。また、教育力強化に向け、入試改革、教育改革、卒業改革及び環境整備の4つの柱の下に、「取組の内容」と「各取組の可視化に向けた実施内容」を明示し、それ

ぞれを「指標」及び「目標」に係る可視化した数値目標として整理し、進行管理していくこととした。今後、このアクションプランを基に計画の着実な実現を図るものである。

日本初のIFW開催

国際学院中学校高等学校では、10月29日(日)から11月5日(日)までの間、日本初のIFW(インターナショナル・フレンドシップ・ウィーク)を開催した。世界7か国から49名の生徒等が来日。交流活動や浅草・川越等の散策、伊奈町長訪問など、参加者それぞれが日本や埼玉県の文化に触れ合うことのできた充実した交流となった。

進む教育環境の整備

教育環境の整備も喫緊の課題であり、学生生徒の声を反映させながら着実に進めている。

大宮キャンパスにおいては、本年から、段階的に教室の机・椅子のリニューアルとLED化を進めている。機能と環境の両立を図りながら、段階的に対象を拡大していく。また、中庭に人工芝を敷き詰め、安全性の確保を図ったが、安らぎ空間の創設にも寄与している。

この他、第3調理実習室換気設備の一新や最新のオープン導入、さらに、バリアフリー工事も着手する予定であり、順次、教育環

境整備が進んでいる。伊奈キャンパスでは、一昨年2号館の新築、昨年は本館の空調設備やトイレの改修など大規模な施設整備が続いたが、本年度も引き続き、人工芝によるテニスコートの新設等の整備を進めている。今後、多様な財源の確保や補助制度の活用等を図りつつ、施設整備を進めていく。

初の授業見学会実施

高校生と保護者対象に

短期大学では、本年度初の試みとして7月17日の海の日、高校生とその保護者を対象に、能動的な学びやキャンパスの雰囲気等、本学のありのままの姿を理解してもらう機会として授業見学会を開催した。授業は、午前10時から午後1時までの間、通の教養科目である「人間と社会Ⅰ・Ⅱ」を公開し、午後は幼児保育学科は、「音楽・音楽理論」、「保育教育課程論」、「障害児保育Ⅰ」を、健康栄養学科は「栄養学」、「製菓・製パン入門Ⅰ」、「解剖生理学実習」、「臨床栄養学論」を、同科調理製菓専攻は、「食

品の特性Ⅰ」を専門科目として公開した。「人間と社会Ⅰ・Ⅱ」の授業に参加した高校生からは、「テュートリアル教育に興味を持った」、「活発な議論をする短大生の姿に驚いた」、「この学校で学ぶ2年間でどのように成長できるのか分かった」等の感想が寄せられた。

授業終了後には、参加した高校生から振り返りシートを記入してもらい、授業担当者がこれにコメントして、郵送でフィードバックした。

本取組は、今後も継続実施する予定である。

高い進路実績を誇る

短大、高校では、毎年高い進路実績を上げている。

短大の進路状況

平成28年度の就職率は、幼児保育学科95・6%、健康栄養学科100%と高い水準を達成した。このことは、卒業生が「確かな専門知識や技能」「良識ある社会人としての態度や行動」を身につけた証しでもある。

こうした学生のキャリア形成に必要な「基礎的・汎用的能力」「論理的思考力

短大と家庭との連携も重要であり、保護者対象キャリア説明会を今年度は7月と9月に開催している。

説明会では、学科の専門性や専門職の求人・就職状況、学生の進路状況、家庭での対応方法等について説明している。

説明会終了後の担任を交えた懇談会では、「家庭での支援の重要性を改めて感

短大・高校では、それぞれ公開講座を開催している。

短大の講座

平成29年度の公開講座は、これまでに6講座・全16日間開催し、延べ288人が受講している。今年度は、6月に「旬の

専門性や特色を活かし開講

短大・高校では、それぞれの専門性や特色を活かした講座を開催している。

短大の講座

平成29年度の公開講座は、これまでに6講座・全16日間開催し、延べ288人が受講している。今年度は、6月に「旬の

論説



今日の高等教育は、様々な課題を有しながらも教育活動の成果が期待されている。特に、社会からの実学的要請は強く、それらは官邸主導の高等教育政策に現れている。教育再生実行会議「これからの大学教育等

の在り方について(第三次提言)(平成25年5月28日)、「教育振興基本計画」(平成25年6月14日閣議決定)、さらに「日本再興戦略-JAPAN's BACK」(平成25年6月14日閣議決定)により基

本政策の一部として策定されている。しかし、そこには人材育成論としての教養の姿は見えず、企業の意見をそのまま人材論に結びつけて政策化したようにも映る。また、今般の学校教育法の一部改正によ

り、「専門人」の育成が重視され、教養教育の機会が失われていったのである。高等教育における教養教育が必ずしも十分定着しなかった原因は、カリキュラムや施策・制度の

みならず、大学における教養教育を専門の学問とも職業的目的とも無関係な「広く、浅い」教育と見なす大学関係者の考え方もあったといわれ

る。平成3年の大学設置基準大綱化に伴い、国立大学をはじめとした多くの大学が行った教養部廃止の措置は、学生の教養基盤教育の弱体化をもたらした。大学審議会「21

世紀の大学像と今後の改革方策について」競争的環境の中で個性が輝く大

学」(平成10年)は、

短期大学における「教養教育」の再構築

「教養教育の重視、教養教育と専門教育の有機的連携の確保」によって実現するものとして、教養

求能力)として、大学で育成すべき能力を定義した。ただし、その能力は

「就職先が決定するまでの流れが理解できた」などの感想が聞かれた。2月には、1年生保護者対象説明会を予定している。

高校の進路状況

平成28年度卒業生(第17期生)は267名で、65・5%(175名)が大学に進学し、18名が短大でそのうち9名が国際学院埼玉短大に進学した。専門学校は19・9%(53名)で、14名の生徒が就職した。16期生も大学の進学率が66・9%で7割弱の生徒が大学に進学する状況となっている。

大学の合格実績も現役で

満足をしました」などの声も聞かれました。講座にも受講者から、満足の声が頂くことができました。

今後は、1月にネイティブによる「英語でヨガ」の講座を予定している。

高校の講座

伊奈町教育委員等と連携し、在校生も補助として参加する中で、料理講習会を実施している。

7月に伊奈町学校開放講座として24年目となる料理教室「おいしく、楽しく、真心込めて」を製菓、西洋料理、中国料理の順に行っ

た。今回はサブテーマに、「ちよつとした工夫で変わるいつもの料理」を掲げ、家庭にある食材を利用したアイデア料理を披露した。

10・11月には、家庭教育学級「食育」料理教室として伊奈町の小・中学校の保護者を対象とした講習会を各校PTA役員と連携して実施した。受講者か

らは、「単純なメニューに付加価値が加わり、よりおいしくなるので勉強になった」補助生徒さんが、テキパキと動いてくれるので助かった」などのうれしい声を頂くことができました。

財務情報

平成28年度の決算概況をお知らせします。

資金収支計算書では決算総額は約45億53百万円となります。収入の部では、学生生徒等納付金収入が対前年度1億24百万円増加しました。

支出の部では、教育研究経費支出が対前年度1億67百万円増加しました。施設関係支出では、大宮キャンパス・トイレリニューアル、伊奈キャンパス空調改修等教育施設整備を積極的に行いました。借入を行わなかった結果、全体では15億94百万円減額となりました。また、事業活動収支計算書では、教育活動収支は2億52百万円の黒字、教育活動外収支は21百万円の赤字となりました。

貸借対照表では、「資産の部合計」は、128億91百万円で、前年度末に比較し1億79百万円の減少となりました。「負債の部合計」は、38億円3百万円で、前年度末に比較し3億89百万円減少しました。「基本金」は、1号基本金が6億10百万円、2号基本金が20百万円増加しました。以上の結果、「純資産」は、90億88百万円となり、前年度末に比較して2億10百万円増加しました。

詳しくは、当学院のホームページをご覧ください。



公開講座(発声法) 10・11月には、家庭教育学級「食育」料理教室として伊奈町の小・中学校の保護者を対象とした講習会を各校PTA役員と連携して実施した。受講者か

第32回 幼児絵画展を開催

最優秀作品賞など15の賞を選出



展示会場

102園・所から963点の応募

幼児絵画展は、本学の大学祭である「五峯祭」に合わせて、11月4日(土)、5日(日)の両日、多くの来場者を迎えて開催した。

幼児絵画展は、昭和61年に第1回を開催して以来、今年で32回の開催となった。本絵画展では、埼玉県内の幼稚園や保育所、こども園等に通っている年少児から年長児までの子ども達を対象とし、幼児教育における表現活動への興味・関心を高め、県内幼児教育の振興に寄与することを目的として開催している展覧会である。今年度は102園・所から963点の応募があり、昨年と比較して応募園数は8園・所増え、出品数も50点以上増加した。

10月11日(水)に行われた審査会では、石原進審査委員長を中心に、学外の先生方並びに学内の審査委員を合わせて15名の審査委員が、すべての作品を厳正に審査した。「こがよし」(個性が溢れているか・心がこもっているか・画面いっぱい描かれているか・喜びにあふれているか・焦点がはっきりしているか)を観点とし、とくに優れた作品には、最優秀作品賞、埼玉県知事賞、審査委員長賞をはじめとする15の賞の選出を行った。

展覧会と同日に開催された表彰式には、多くの子ども達や保護者の皆様をお迎えすることができた。子ども達は慣れない雰囲気緊張した表情も見せたが、賞状を受け取り、保護者のもとに笑顔を見せた。また、学生にとっても、多くの作品を観ることは、表現活動に興味をもち、個々の表現の違いにも気づくことができると大きな学びの機会となった。

幼児絵画展実施委員長は、「今年度も開催にあたり、ご尽力いただいた諸先生方、ご支援・ご協賛を賜りました各団体の皆様、さらには企画・運営・準備に関わった教職員・事務職員の皆様に感謝申し上げます。また、作品を出品された子ども達のさらなる活躍を期待すると共に、保護者の方々と作品を見てくださった幼稚園・保育所・こども園等の皆様方にも厚く感謝申し上げます」と謝辞を述べた。

私は9月4日から25日までの3週間、幼稚園で実習をさせていただきました。今回の実習に取り組みにあたり、子どもと同じ目線で遊びをすることで理解を深め、実習生という立場からこそ沢山の学びを吸収するということの目標を定めて実習に臨みました。実習期間中は主に運動会の練習があり、「やる時はやる」という子どもの一生懸命に練習に取り組む姿と指導する保育者の熱い眼差しが印象的でした。

今回の実習を終え、人と関わる保育士という仕事に改めて誇りを持ちました。責任実習では、製作を行う上でより効率の良い手順や環境構成で行うことについて反省点はありますが、沢山の気づきと保育の楽しさを感じることが出来ました。

今回の実習を終え、人と関わる保育士という仕事に改めて誇りを持ちました。責任実習では、製作を行う上でより効率の良い手順や環境構成で行うことについて反省点はありますが、沢山の気づきと保育の楽しさを感じることが出来ました。

実家のある福岡県に帰省し、12日間の保育実習を無事終えることが出来ました。今回の実習では、子どもや保育者と関わる中で、園全体で子どもを育てようとする気持ちや子ども一人ひとりの個性を引き出す工夫、子ども同士の関わりが大切さを学ぶことが出来ました。

責任実習では、指導案を作成するにあたり、製作をした際に子どもがどんな反応をするか、どんな言い方が子どもに分かりやすく伝わるかなどを考えたところが難しかったです。しかし、子どもの普段の様子を保育者に聞くことや実際に子どもと関わることで、想像しやすくなり、子どもを想像しやすくなり、子どもを大切にしたいという気持ちを改めて感じました。

今回の実習を通して、保育所で働きたいという思いが強くなりました。

課題としては、子どもと的一对一の関わりが多かったため、一人ひとりに合わせた接し方だけでなく、クラス全体をまとめていける力も身に付けていきたいと思っております。

私は以前から児童養護施設に就職を希望しており、宿泊を含めた12日間の実習を行いました。学校や自己学習で施設の機能や実態を学んではいたものの、実際に経験してみると自分の想像とは違いました。以前は非行などマイナスイメージが強かったのですが、実際の子どもの礼儀正しく明るい子が多く、多くの子ども達と交流することができました。実習では子ども達と共に

朝昼晩3食の食事、幼児との遊びや、小学生の通学指導、小・中学生の宿題の指導、子ども達の衣服等の洗濯、施設内の掃除、幼児の寝かしつけ等、子ども達の生活全般の支援を行いました。また、地域の方々を交えての納涼祭の開催など、季節の行事にも参加することが出来ました。

施設内の雰囲気もとても良く職員の方には優しく丁寧にご指導頂きました。毎日の反省会では質問などに丁寧に詳しく答えて頂き、とても実りある実習になりました。この実習で得た学びを今後活かして、研鑽していきます。

最終日の研究授業では「適切なおやつを取り方について考えよう」という授業を行いました。1週間クラス担任のアドバイスをもらい、充実した授業を行うことができました。クラスの児童とも良好な関係が築けていたため、緊張はしましたが、楽しく授業ができました。児童からも「授業わかりやすかった」「栄養士になりたいと思ったよ」と言われてとても嬉しかったです。

この1週間得た貴重な経験を生かし、栄養士を目指してがんばりたいと思います。

一般・高校生の2部門で実施

第25回 味彩コンテスト

食生活の改善や地産地消を目的



試食審査

25回「味彩コンテスト」が国際学院埼玉短期大学で開催された。このコンテストは、主催が国際学院埼玉短期大学及び同窓会の分科会である「あすなろ会」。「けやき会」後援団体は、関東農政局から新たに参画いただき、埼玉県、さいたま市をはじめ、他7団体と、協賛団体は14団体の協力を得て実施された。

本コンテストは、食生活の改善や地産地消を目的とした料理コンテストとして、平成5年から開催されており、課題は、昨年同様、埼玉県産の鶏卵や野菜と黒豚(高校の部は国内産豚肉)を使用して、一般の部は「ごはんにあう彩り主

業料理」、高校の部は「素材の味と彩りをいかした高校生バランス弁当」とし、一般・高校生を対象に募集した。応募者総数は465名(一般の部271名、高校の部194名)の応募であった。この中から、事前の第一次審査(レシビ審査)を経て、一般の部17名、高校の部10名が、コンテスト当日の第二次審査(調理・試食審査)に臨んだ。

学内外の審査委員によって、40分間の調理審査後、出来上がった料理の試食審査が行われ、各賞が決定された。最優秀作品の学長賞は、一般の部は、菊地知子さんの「はりねずみの彩りスコッチエッグ」が、高校の部は、佐藤涼佳さんの「豆腐でヘルシー!ネギ味

増ハンバーグ」が選ばれた。これらの作品は本学の五峯祭(11月4、5日)において、レストラン彩り亭のメニューとして来場者に販売された。

また、今回は関東農政局の鶴岡課長から、参加者向けに「食は楽しく!食選力をつけよう!」と題した講演をして頂き、大変好評であった。

味彩コンテストの様子

は、7月24日の埼玉新聞、7月30日の毎日新聞埼玉県版にも掲載され、その意義や内容を広く埼玉県内の皆様に紹介して頂いた。

これからも味彩コンテストは、地域の健康づくりや地産地消に貢献する事業として、内外からの期待を集めている。

教育実習を終えて 改めて保育士の仕事に誇り

幼児保育学科2年A組 小山明日香



私は9月4日から25日までの3週間、幼稚園で実習をさせていただきました。今回の実習に取り組みにあたり、子どもと同じ目線で遊びをすることで理解を深め、実習生という立場からこそ沢山の学びを吸収するということの目標を定めて実習に臨みました。実習期間中は主に運動会の練習があり、「やる時はやる」という子どもの一生懸命に練習に取り組む姿と指導する保育者の熱い眼差しが印象的でした。

保育実習を終えて 個性引き出す工夫学ぶ

幼児保育学科2年C組 野田 碧衣



実家のある福岡県に帰省し、12日間の保育実習を無事終えることが出来ました。今回の実習では、子どもや保育者と関わる中で、園全体で子どもを育てようとする気持ちや子ども一人ひとりの個性を引き出す工夫、子ども同士の関わりが大切さを学ぶことが出来ました。

責任実習では、指導案を作成するにあたり、製作をした際に子どもがどんな反応をするか、どんな言い方が子どもに分かりやすく伝わるかなどを考えたところが難しかったです。しかし、子どもの普段の様子を保育者に聞くことや実際に子どもと関わることで、想像しやすくなり、子どもを想像しやすくなり、子どもを大切にしたいという気持ちを改めて感じました。

今回の実習を通して、保育所で働きたいという思いが強くなりました。

課題としては、子どもと的一对一の関わりが多かったため、一人ひとりに合わせた接し方だけでなく、クラス全体をまとめていける力も身に付けていきたいと思っております。

校外実習を通して学んだこと 報・連・相の大切さ

健康栄養学科 食物栄養専攻2年B組 土橋 智子



私は8月21日から10日間、IMSグループ春日部中央総合病院で実習させていただきました。調理現場では250食以上の食事を取り扱うにあたり、効率が良い調理手順や調理方法、多種多様な食数をこなす方法、徹底した衛生管理など多くのことを学びました。

患者様の食事は病状により食種や食事形態も異なるため、器に盛つたり、配膳車に入れるときは間違えないように心掛けました。

施設実習を通して学んだこと 内定受けさらに向上心

健康栄養学科 調理製菓専攻2年C組 諸星 拓末



私は平成25年2月1日から14日までの約2週間、ホテルメトロポリタンエドモントの宴会洋食の厨房で校外実習をさせていただきました。

私はこの実習で学んだことが多く、さらに学びたいという気持ちから、このホテルの採用試験を受け内定を頂くことができました。来年入社しても今のこの気持ちをおさず、常に向上心を持って仕事に取り組んでいこうと思います。

教育実習(栄養教諭)を通して学んだこと 子どもと良好な関係築く

健康栄養学科 食物栄養専攻2年A組 金子 有彩



教育実習を通して私は、小学校における食育の実態、栄養教諭の業務内容や児童に対する関わり方を学びました。クラスの児童と関わることはもちろん、実際の給食室での調理の様子を見学して、衛生管理やアレルギーに対する配慮を学ぶことが出来ました。栄養士さんの話では、アレルギー児にもみんなと同じようにおいしい給食を食べてもらいたいと日々研究をしているという貴重なお話も伺いました。

最終日の研究授業では「適切なおやつを取り方について考えよう」という授業を行いました。1週間クラス担任のアドバイスをもらい、充実した授業を行うことができました。クラスの児童とも良好な関係が築けていたため、緊張はしましたが、楽しく授業ができました。児童からも「授業わかりやすかった」「栄養士になりたいと思ったよ」と言われてとても嬉しかったです。

この1週間得た貴重な経験を生かし、栄養教諭を目指してがんばりたいと思います。



私が射撃を始めたきっかけは、父親が射撃をしていて興味を持ったからです。最初は、結果が全く残せなかったり、大会の運営が忙しい時などに辛いと感じたりする時もありました。その

射撃部 将来は五輪で活躍を 3年B組 姫野 祐輝 (川口市立西中学校)

けれども、仲間を支えられても、仲間に支えられても、一人の努力をしてきました。そんな中、初めて結果を残すことが出来たのが2年生の時、初出場であった全日本大会でした。その時の私は、初めての大会で緊張もありましたが、それ以上に勝てる自信もありました。そして、その自信が持てたことにより決勝に残ることが出来ました。しかし、決勝の雰囲気にもまれてしまい、思うように力が出せず5位入賞に終わりました。悔しい気持ちもありましたが、その時は、努力が実ったことに嬉しく思いました。

その後は、全関東大会にエアライフルで出場をして、3位入賞することが出来ました。それから私には、日々鍛錬を努力を怠らず、日々鍛錬を



クラブ活動報告

I F W運営委員の生徒 “おもてなし”の心で対応



藍染体験する参加者

(1面からの続き)
8日間の取組の中で印象的なものを以下に記す。

2日目は、国ごとにグループ分けを行い、I F W運営委員の生徒と上智大学短期大学の学生がそのグループに入り、浅草の案内を行った。また、海外の生徒は日本の生徒・学生の力をかりながら雷おこしづくりの体験を行った。宿泊所の代々木から浅草までの切符の購入と昼食場所の確保に苦労した。生徒たちは、友熱心かつ親切に説明したが、うまく伝わらず、困惑しつつも交流を楽しみ姿が印象的だった。

また、本校生徒からは上智短大の学生は頼もしく思える存在であり、年上の学生の姿に自分の近い将来像を重ねて活動することができたようであり、国際学院中学校高等学校と上智大学短期大学部との高大連携事業としても成功したと言える。



誕生日を祝う生徒たち

3日目の伊奈キャンパスでのウェルカムセレモニーでは、本校生徒全員が参加して盛大な歓迎を行うことができた。厳かな雰囲気の中でも吹奏楽部がサブリイズとして海外の生徒の誕生日を祝うなど和やかな場面も見られ、思い出に残るセレモニーとなった。本校生徒にとっても7カ国の生徒・教員に直接会うことによりI F Wを実感する機会になり、セレモニー終了後は多くの生徒が海外の生徒に話しかけていた。

このほか、ユネスコ部などの部活動や中学生も積極的に交流し、大きな成果をあげることができた。全体を通してI F W運営委員の生徒は、海外の生徒と一週間寝食を共にし、交流行事の司会や誘導などを行った。少しでも外国の生徒・教員の力になろうとおもてなしの心をもって対応していた。

今年度の芸術鑑賞は日生劇場の計らいにより3大バレエにあげられる、白鳥の湖を鑑賞させていただくこととなった。昨年度も同劇場で、オペラを鑑賞させて戴き2年連続となり、生徒・教職員共にレベルの高い芸術に触れることを、楽しみにしていた。

6月12日に日生劇場の方にマコトホールにて全校生徒に事前学習を実施していただき、バレエには言葉はなくダンスによる動きで人間の感情を表現することなどをはじめ、バレエ鑑賞に必要な基礎知識を説明していただき、生徒も大変興味深い様子で聞き入っていた。

6月12日に日生劇場の方にマコトホールにて全校生徒に事前学習を実施していただき、バレエには言葉はなくダンスによる動きで人間の感情を表現することなどをはじめ、バレエ鑑賞に必要な基礎知識を説明していただき、生徒も大変興味深い様子で聞き入っていた。

受け継ぐべきに決めて勉強を始め、そして準2級に合格しました。勉強の仕方は人それぞれあると思いますが、私にはこの方法が合っていたのだと思います。しかし、「どうせ合格しないから」と諦めてしまおうではなく、一生懸命勉強する事の方が大事だと思っています。私がそれぞれの検定を受験するのは、学校の皆が受験するからではなく、将来の自分に必要だと思うからです。例えば英検は、これからの時代、ますます英語が重要になってくると思うから、数検は大学で勉強するために絶対に役立つものだから、そして漢検は、これから先も多くの知識を得るためには沢山の本を読まなければならないし、また論文等も書かなければならないと思ったからです。最近では帰宅後に検定の勉強をする事ができないので、主に休みの日に勉強するようにしています。近い未来に小さな目標があることで最終的な目標に近づいていけると実感しています。たとえ合格できなくても努力は決して無駄にならないと思っています。今年も「本物」にふれることができたと感じた。最後に企画していただいた日生劇場の方々、暑い中立哨指導にあたって下さった先生方、来賓の先生方、ご協力下さった皆様にご感謝しています。



陸上競技部 強い気持ちで挑戦 小林 梨花 (さいたま市立日進中学校)

9月28日から30日までの3日間、熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で、埼玉県高校新人大会が開催されました。私は、1000mハードル・4×1000mリレー

4000mハードル・4×4000mリレーの4種目に出場しました。大会2日目に行われた4×1000mリレーはケガをしていて仲間もいて、ベストメンバーで挑むことができませんでした。しかし、それを言い訳にしたくなかったため、メンバー全員で優勝することを強く意識していました。予選、準決勝

とトップで通過し、迎えた決勝でも、他のチームに前部活動を通して、この3年間たくさんの人に支えてもらっていることを知り、感謝の気持ちでいっぱいです。この感謝の気持ちを伝えるために、これからも選手としてのレベルを上げて、必要不可欠だと考えています。

私がこうして結果を残せているのは、射撃を教えてくださるコーチや先生、支えてくださっている両親や友人、いろいろな形でサポートを受けてくださる方々がいるからだと考えています。部活動を通して、この3年間たくさんの人に支えてもらっていることを知り、感謝の気持ちを伝えるために、これからも選手としてのレベルを上げて、必要不可欠だと考えています。

大会3日目は、私の専門種目である4000mハードルの決勝がありました。今大会4種目に出場して3日間休みがない戦いでした。私は、足に不安があり、3日間戦い抜くのが正直不安でした。しかし、今年の春の県大会では、この4000mハードルで7位を取ってしまいインターハイへの道が消えてしまいました。あのときの絶望は今でも忘れることができません。

だからこそこの大会では、リベンジという意味でも「絶対優勝」と心に決めていました。いつもは決勝前に不安が多くあるのですが、今大会の私は勝利するイメージが出来ており、あまり緊張していません。

結果を残すことができたのは仲間の応援、日々指導してくださる顧問の先生、サポートしてくれた家族の支えがあったからだと思っています。その他の種目についても、1000mハードルは4位、4×4000mリレーは3位と結果を残すことができました。

私の目標は、来年の三重インターハイに出場し、全国制覇することです。そのために、部訓である凡事徹底の精神のもと、1日1日を無駄にせず、目標達成にむけた努力を継続させていきたいと考えています。今後は、お世話になっている方々への感謝の気持ちを忘れず、精進していきたいと思っています。

クラブ活動報告

検定取得
多くの資格獲得、ついに上へ
中学3年 小越 萌
(上尾市立大石小学校)

私が初めて検定試験を受けたのは、中学校へ入学したわずか2カ月後の6月に行われた英語検定でした。それまでは一度も検定試験を受けた事はありませんでした。当時、クラス



の何人かの人はすでに英検や数検などの級を取得しており、驚いたことを今でも覚えています。私の場合、英語は中学校に入ってから勉強を始めたので、5級から受験しようと思いましたが、しかし、どのような問題が出題されるのか、どのように勉強すればいいのか、私にとって中学校生活と同様に未知の世界でした。けれど、英語の授業はとても楽しく、先生方も優しく指導してくださり、無事に5級に合格できました。この時は本当に嬉しかったのです。

その後、漢字検定、数学検定、世界遺産検定を受験するために、学校行事や定期考査の合間に試験勉強をし、それぞれ合格する事ができました。

2年生になると、検定にも慣れてきたので、自分で計画を立てて勉強する事が出来るようになりました。英検は、級が上がると、出題される問題の単語が難しくなるため、冬に

いるように見え、日頃から厳しいレッスンに取り組んでいることが伝わってきた。物語の最後のシーンでは、涙する女子生徒もおり、今年も「本物」にふれることができたと感じた。

最後に企画していただいた日生劇場の方々、暑い中立哨指導にあたって下さった先生方、来賓の先生方、ご協力下さった皆様にご感謝しています。

受験する事に決めて勉強を始め、そして準2級に合格しました。勉強の仕方は人それぞれあると思いますが、私にはこの方法が合っていたのだと思います。しかし、「どうせ合格しないから」と諦めてしまおうではなく、一生懸命勉強する事の方が大事だと思っています。私がそれぞれの検定を受験するのは、学校の皆が受験するからではなく、将来の自分に必要だと思うからです。例えば英検は、これからの時代、ますます英語が重要になってくると思うから、数検は大学で勉強するために絶対に役立つものだから、そして漢検は、これから先も多くの知識を得るためには沢山の本を読まなければならないし、また論文等も書かなければならないと思ったからです。最近では帰宅後に検定の勉強をする事ができないので、主に休みの日に勉強するようにしています。近い未来に小さな目標があることで最終的な目標に近づいていけると実感しています。たとえ合格できなくても努力は決して無駄にならないと思っています。今年も「本物」にふれることができたと感じた。最後に企画していただいた日生劇場の方々、暑い中立哨指導にあたって下さった先生方、来賓の先生方、ご協力下さった皆様にご感謝しています。

台湾の高校生らが来校

枋寮高級中学・恆春高級工商職業学校 祈り鶴プロジェクトで交流

6月3日(土)に埼玉県観光課の紹介により枋寮高級中学・恆春高級工商職業学校の教員2名・生徒21名の合計23名が来校した。本校は埼玉県訪日教育旅行誘致・受入推進協議会に加盟しており、毎年台湾の高校生が本校を訪れ、国際交流の一環として行われたものである。

なお、この学院新聞が発行される前日の12月5日には、台湾の高校生が本校を訪れ、日本料理を食物調理コースの生徒と共に作る企画が予定されている。

このように日本と台湾の交流が確実に継続されていることが実感できる1年になってきていることはESD推進室として嬉しい限りである。

スリランカ料理講習会

食を通し国際理解学習

日本人の味覚との違い実感

この講習会は、本校が2010年7月にユネスコスクールに加盟して2011年から「ユネスコスクールESDアシストプロジェクト」として日本ユネスコ協会連盟より助成を受け実施されており、2012年から毎年、公益財団法人「埼玉国際交流協会」にご協力をいただき、食を通して国際理解学習を行うプロジェクトである。

本年度は、7月20日(木)に講師のサスリカ・クレ先生をお迎えし、南アジアにある国、スリランカの料理を食物調理コースの生徒85名が学習した。

本年度の講習会のメニューは、「チキンカレー」、「ダールカレー」、「スパイスご飯」、「ミルクティー」の計4品であった。

「スパイスご飯」に使用されたお米は、「バスマティライス」というインディカ種の長い形をした品種であり、日本で一般的に食されているジャポニカ種の

とができるのもこの合宿の良いところである。このように毎年の積み重ねが、夏季進学合宿の良き伝統として受け継がれていくのである。

学力向上に向けて熱く授業を行う教員、それに応えるように生徒の授業に臨む真剣な眼差し、同じ目標を持った仲間と切磋琢磨している姿を目の当たりにし、今年も例年以上に良い進路結果を生む土台が出来たと確信している。

11月22日に、中学1年生と2年生は競歩大会を行いました。学校から、大宮にある国際学院埼玉短期大学まで約18kmの距離を歩きました。2年生は2回目、1年生にとっては初めての競歩大会です。真冬のような寒さの中、学校をスタートしました。

最初に、市民の森に行きました。広場で昼食を食べた後、「リスの家」を見学しました。館内にはシマリスが放し飼いでおり、リスの俊敏な動きや餌の食べ方などを間近で見ることができました。普段はあまり見ることのできない動物が、全員興味津々で見学しました。

次に、サッカーの試合にも使用されるNACK5スタジアムを見学しました。実際に大宮アルディージャを見学した際には、清掃活動やイベントへの参加など、地域社会にも貢献していることを



台湾の教員と生徒たち

歓迎会後には、350万匹の折り鶴をアメリカに届ける「祈り鶴プロジェクト」に両国の高校生が参加した。短い時間だったが、両国の生徒が平和(中国語では「和平」と逆になる)と「和」を折り、熱心に鶴を折る姿が印象的であった。



講師のサスリカ・クレ先生

初めて参加した1年生の生徒達は、これまで経験したことのない学習量に戸惑ったようであったが、学習にも体力が必要となることを実感できたようだ。2年生は学習に真剣に取り組みつつ、下級生に助言を行うなど、確かな成長がみられた。3年生は、最上級生として、受験生として、真剣に学習に取り組む姿勢は大変頼もしく、下級生のよい手本となった。下級生がそのような先輩の姿を見るこ

毎年、海外研究の事前学習として国際理解教育を推進し、世界の様々な地域の文化を学ぶために世界異文化学習会を実施している。アジアやアフリカなどの地域に関する理解は浅いため、この学習会でこれらの

地域の文化およびその背景を学び、自国文化との相違点および類似点について理解することが目的である。今年度は埼玉県国際交流協会の協会設立30周年にあたり、「730万人の国際

理解プロジェクト」の記念行事として、7月18日に第2学年全員が参加した。生徒たちは、ウィグル、パラグアイ、タイ、スリランカ、モンゴル、コロンビア、インドネシア、マレーシア、香港、ペルー、韓国、ロシアの12カ国に分かれてそれぞれ学習を行った。

前半は各国について講義を受けた。それぞれの国の人口、気候、面積、人種構成などの基本的な情報や食文化、歴史、学校生活について学ぶことができた。

生徒達の感想には、「他の国の言語について興味をもてるようになった」「日本文化との違いがよく理解できた」と同時に、「似た部分もあり大変興味深く聞くことができた」と、それぞれ

朝から晩まで息つく暇もなく、英語の学習に取り組む、正に英語漬けの3日間となりました。

参加した生徒たちは日頃の学校の授業では、50分の時間が合宿では、90分という慣れない時間と学習量に戸惑ったようであったが、次第にそれぞれがペースをつかみ始め学習への集中した取り組みができるようになった。夜の英会話では話が途切れないように、それぞれが必死に単語をつないでいる姿は、確かな成長がみられ、今後が楽しみであった。また、この合宿の良いと

◆高校夏季進学合宿

学年を超えて 目標へ切磋琢磨



充実した勉強合宿

夏季休業中の恒例行事である夏季進学合宿が8月21日から8月24日の3泊4日の日程で実施された。場所は

は国立オリンピック記念青少年総合センターで、第3学年17名、第2学年18名、第1学年20名の合計55名が

参加した。夏らしい暑さが戻った時期であったが、3泊4日の日程を全員が一生涯懸命に取り組む、充実した勉強合宿を過ごすことが出来た。

この合宿では、朝6時半のラジオ体操から始まり、午前90分の授業を2コマ、午後4コマ、夜は自習・確認テストと、朝から晩まで息つく暇もなく、学習に取り組む。一貫部所属の生徒も増え、どの学年にも成果があった。

とができるのもこの合宿の良いところである。このように毎年の積み重ねが、夏季進学合宿の良き伝統として受け継がれていくのである。

学力向上に向けて熱く授業を行う教員、それに応えるように生徒の授業に臨む真剣な眼差し、同じ目標を持った仲間と切磋琢磨している姿を目の当たりにし、今年も例年以上に良い進路結果を生む土台が出来たと確信している。

夏休みの恒例となりつつある英語合宿に、昨年度から高校1年生も加わり、7月30日から8月1日の2泊3日の日程で実施された。場所は、嵐山にある国立女性会館で、高校生一貫部生含む27名、中学生47名の合計74名が参加した。最終日には、中学1年生は、私学テスト、中学2、3年生と高校生はのびに臨んだ。

この合宿では、朝の散歩やランニングから始まり、午前90分2コマ、午後90分2コマ、夜は60分1コマの英会話検定が行われ、担当の教員と日本文化や日常生活の事柄について英語で説明するという授業が行われた。生徒たちは、必死にそれぞれのテーマに合わせ、各自が必至に身振り手振りを交えて、会話や説明

を行う。出来なければ翌日の朝、確認テストが行われ合格するまで何回もテストを受けるというものも取り入れられた。正に今年度は、

朝から晩まで息つく暇もなく、英語の学習に取り組む、正に英語漬けの3日間となりました。

参加した。夏らしい暑さが戻った時期であったが、3泊4日の日程を全員が一生涯懸命に取り組む、充実した勉強合宿を過ごすことが出来た。

この合宿では、朝6時半のラジオ体操から始まり、午前90分の授業を2コマ、午後4コマ、夜は自習・確認テストと、朝から晩まで息つく暇もなく、学習に取り組む。一貫部所属の生徒も増え、どの学年にも成果があった。

とができるのもこの合宿の良いところである。このように毎年の積み重ねが、夏季進学合宿の良き伝統として受け継がれていくのである。

学力向上に向けて熱く授業を行う教員、それに応えるように生徒の授業に臨む真剣な眼差し、同じ目標を持った仲間と切磋琢磨している姿を目の当たりにし、今年も例年以上に良い進路結果を生む土台が出来たと確信している。

夏休みの恒例となりつつある英語合宿に、昨年度から高校1年生も加わり、7月30日から8月1日の2泊3日の日程で実施された。場所は、嵐山にある国立女性会館で、高校生一貫部生含む27名、中学生47名の合計74名が参加した。最終日には、中学1年生は、私学テスト、中学2、3年生と高校生はのびに臨んだ。

この合宿では、朝の散歩やランニングから始まり、午前90分2コマ、午後90分2コマ、夜は60分1コマの英会話検定が行われ、担当の教員と日本文化や日常生活の事柄について英語で説明するという授業が行われた。生徒たちは、必死にそれぞれのテーマに合わせ、各自が必至に身振り手振りを交えて、会話や説明

を行う。出来なければ翌日の朝、確認テストが行われ合格するまで何回もテストを受けるというものも取り入れられた。正に今年度は、

朝から晩まで息つく暇もなく、英語の学習に取り組む、正に英語漬けの3日間となりました。

参加した生徒たちは日頃の学校の授業では、50分の時間が合宿では、90分という慣れない時間と学習量に戸惑ったようであったが、次第にそれぞれがペースをつかみ始め学習への集中した取り組みができるようになった。夜の英会話では話が途切れないように、それぞれが必死に単語をつないでいる姿は、確かな成長がみられ、今後が楽しみであった。また、この合宿の良いと

◆夏季英語合宿

中高で互いに切磋琢磨



充実した勉強合宿

参加した。夏らしい暑さが戻った時期であったが、3泊4日の日程を全員が一生涯懸命に取り組む、充実した勉強合宿を過ごすことが出来た。

この合宿では、朝6時半のラジオ体操から始まり、午前90分の授業を2コマ、午後4コマ、夜は自習・確認テストと、朝から晩まで息つく暇もなく、学習に取り組む。一貫部所属の生徒も増え、どの学年にも成果があった。

とができるのもこの合宿の良いところである。このように毎年の積み重ねが、夏季進学合宿の良き伝統として受け継がれていくのである。

参加した。夏らしい暑さが戻った時期であったが、3泊4日の日程を全員が一生涯懸命に取り組む、充実した勉強合宿を過ごすことが出来た。

この合宿では、朝6時半のラジオ体操から始まり、午前90分の授業を2コマ、午後4コマ、夜は自習・確認テストと、朝から晩まで息つく暇もなく、学習に取り組む。一貫部所属の生徒も増え、どの学年にも成果があった。

とができるのもこの合宿の良いところである。このように毎年の積み重ねが、夏季進学合宿の良き伝統として受け継がれていくのである。

学力向上に向けて熱く授業を行う教員、それに応えるように生徒の授業に臨む真剣な眼差し、同じ目標を持った仲間と切磋琢磨している姿を目の当たりにし、今年も例年以上に良い進路結果を生む土台が出来たと確信している。

夏休みの恒例となりつつある英語合宿に、昨年度から高校1年生も加わり、7月30日から8月1日の2泊3日の日程で実施された。場所は、嵐山にある国立女性会館で、高校生一貫部生含む27名、中学生47名の合計74名が参加した。最終日には、中学1年生は、私学テスト、中学2、3年生と高校生はのびに臨んだ。

この合宿では、朝の散歩やランニングから始まり、午前90分2コマ、午後90分2コマ、夜は60分1コマの英会話検定が行われ、担当の教員と日本文化や日常生活の事柄について英語で説明するという授業が行われた。生徒たちは、必死にそれぞれのテーマに合わせ、各自が必至に身振り手振りを交えて、会話や説明

を行う。出来なければ翌日の朝、確認テストが行われ合格するまで何回もテストを受けるというものも取り入れられた。正に今年度は、

朝から晩まで息つく暇もなく、英語の学習に取り組む、正に英語漬けの3日間となりました。

参加した生徒たちは日頃の学校の授業では、50分の時間が合宿では、90分という慣れない時間と学習量に戸惑ったようであったが、次第にそれぞれがペースをつかみ始め学習への集中した取り組みができるようになった。夜の英会話では話が途切れないように、それぞれが必死に単語をつないでいる姿は、確かな成長がみられ、今後が楽しみであった。また、この合宿の良いと

競歩大会

深まった団結力

中学校2年1組 月岡 美咲(さいたま市立島小学校)



初めて知りました。ゴールである国際学院埼玉短期大学に到着すると、先生方が拍手で迎えてくれました。私はその時、とても達成感を感じました。ここまで歩いてきてよかったです。そして、保護者の方々が作ってくれた温かい豚汁とフルーツポンチは、とてもおいしくほっとする味でした。

今回の強歩大会を通して、諦めない根気強さが身につきました。また、互いに励まし合いながら歩いたことで、さらに団結力が深まりました。今回も学んだことを活かし、次の行事にも取り組んでいきたいです。

11月22日に、中学1年生と2年生は競歩大会を行いました。学校から、大宮にある国際学院埼玉短期大学まで約18kmの距離を歩きました。2年生は2回目、1年生にとっては初めての競歩大会です。真冬のような寒さの中、学校をスタートしました。

最初に、市民の森に行きました。広場で昼食を食べた後、「リスの家」を見学しました。館内にはシマリスが放し飼いでおり、リスの俊敏な動きや餌の食べ方などを間近で見ることができました。普段はあまり見ることのできない動物が、全員興味津々で見学しました。

次に、サッカーの試合にも使用されるNACK5スタジアムを見学しました。実際に大宮アルディージャを見学した際には、清掃活動やイベントへの参加など、地域社会にも貢献していることを

それが異文化について理解を深めることができたようである。また、今まで遠い国の話として聞いていたことがとても身近感を持つようになり、もっと知りたいと思うようになったという生徒もいた。

生徒たちはこの異文化学習会を通じて、世界に目を向けるきっかけになり、視野を広げる良い機会となったようである。この後に実施される海外研究につながる良い学習会となった。

特集

体育大会・体育祭 研修旅行 五峯祭

国際学院の3校では、体育大会(体育祭)、研修旅行(海外・国内)・修学旅行、五峯祭等の学校行事を毎年実施している。ここでは、各行事の運営等を中心と成り関わりつらり、各学生・生徒や担当教員から、行事の様子や改善・工夫した点、感想等を述べてもらった。

前年反省し競技に工夫

体育大会委員長

幼児保育学科2年A組 岩澤ひかる



競技レース数増加で盛り上がる



熱戦を繰り広げた綱引き(中高)

1年次は総括委員として事前準備や体育大会当日の運営に携わりましたが、当時は自分が担当する役割を果たすことで精一杯になり、周囲を見て動くことができていませんでした。今年度、自分が体育大会

一致団結し、フェアプレー精神で競技

中学校高等学校体育祭

中学校高等学校の体育祭は6月7日、上尾運動公園陸上競技場において開催された。今年、「Reach the top」をテーマに、各クラスが一致団結し、フェアプレー精神で競技を行った。中学校の対抗部では、紅組が優勝を果たした。また、午後に行われた演技発表においては、中学生の元気あふれるダンスに観戦していた保護者から拍手や大きな声援が送られていた。

高校生のクラス対抗総合の部では、3年B組が3年生としての意地を見せて優勝を果たした。また、3年B組は、最もまとまった応援を見せたクラスに送られる団結賞も獲得し、上級生として他の模範となる行動を見せてくれた。競技以外の面でも、今年度のテーマである研鑽のもと、準備・運営・後片付けにおいて、生徒全体が一致団結して取り組んだ体育祭であった。

自分の視野の狭さ実感

オーストラリア研修実行副委員長

健康栄養学科2年B組 原村 恵

オーストラリア研修では様々なことを学び、異国の文化に沢山触れることが出来ました。

ホームステイでは多くの学生が慣れない英会話に苦労しつつも、ホストファミリーの方々が分かり易い言葉で会話を繋いでくださっ

たお陰で、交流を深め充実した時間を過ごすことが出来ました。

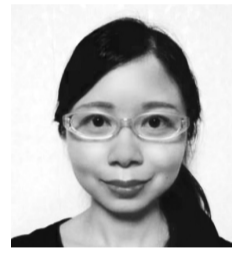
シドニー大学ではオーストラリアの食生活や栄養指

カナダ研修

学び深めた有意義な研修

カナダ研修実行副委員長

幼児保育学科2年A組 三井 愛美



カナダ研修では、ホームステイやバンクーバーアイランド大学(VIU)での講義とアクティビティ、市

内観光など様々な経験をすることが出来ました。ホームステイでは1〜3人の学生がホストファミリー

と11日間を過ごしました。言語や文化の違いもあり、はじめは緊張し戸惑う

ことが多くありましたが、ホストファミリーが優しくわかりやすく話しかけてくれるので英語を聞き取ることも慣れ、自然と楽しくコミュニケーションが出来るようになりました。

VIUでは英会話について学びました。英語が得意ではない学生もいましたが講師の方がわかりやすく教えてくださり、スケートなどのアクティビティで英会話を実践することで身に付けることができました。

この研修を通して現地の方の優しさに触れながら言語や異文化について学ぶことができ、有意義な時間を過ごすことができました。学生一人ひとりの目標や学科に沿った学びも深めることができた、この経験を将来に役立てたいと思います。

五峯祭

昨年の反省を活かし、日々の学びを具現化

短大

健康栄養学科2年A組 小野寺莉奈



今年度の五峯祭は、天気恵まれ、多くのお客様を迎えることができたことに心から感謝しています。昨年

の反省を活かし、五峯祭総括を中心に「報告・連絡・

かな自然の中で、カーリングや飯盒炊爨などの体験活動を通じ自然環境に対する知識や保護活動への自主性を育み、富岡製糸場や万平ホテルなど人々が培い守ってきた歴史的背景を学ぶほかに、日々のしがらみや個人が抱える大きな問題から離れ、規律ある集団行動の中で友人や先輩、後輩と、オリエンテーリングやロッジでの宿泊等の交流を図り、自己を見つめ直す良い研修となった。

生徒たちは、様々な事情がある中、要所で教員の予想を超える成果を挙げており、その成果が今後の糧になることが期待される。

皆の意見をまとめることに不安がりましたが、副委員長をはじめ、五峯祭学生委員、学生の皆さん、そして多くの先生方のご指導・ご助言を頂きながら日々の学びを具現化できた結果だと思えます。先輩たちの力も影ながら頂いたこと感謝しています。五峯祭の成功は皆さんの協力のおかげです。本当にありがとうございました。

今年の最優秀賞には3年C組「アロマの香りドリラックスタバスソルト」が選ばれ、クラスTシャツコンテストでも最優秀賞を受賞し2冠を達成した。その他の団体においても随所に精力的な成果が見られるものであった。

高等学校 海外研究

カナダの自然や文化を学ぶ

全てのコースで充実した研修



今年度も第2学年の海外研修・語学研修・国内研修が実施され、無事終了した。

海外研修コースでは、2泊3日のホームステイ、高校訪問、カナダの自然やカリーニング体験などの選択コース、バンクーバーやシアトルでの別班研修を行った。現地での文化や習慣などを学ぶ貴重な機会となった。

全てのコースで充実した研修を行うことができた。この研修の成果を今後の学校生活に生かしている。

野外活動や総合的学習の時間の中で年に一度、宿泊研修を実施している。この研修は、集団行動・班行動を通じて集団生活の規則や規律、並びに協調性を学ぶ、今後の社会生活を送る上で基礎を確立することを目的としている。今年度は、初めての軽井沢で行う自然体験研修を9月11日、13日の2泊3日で行った。

軽井沢独特の冷涼な夏の気候、排水のよい高燥な大地、豊富な森林地帯など豊

ことが多くありましたが、ホストファミリーが優しくわかりやすく話しかけてくれるので英語を聞き取ることも慣れ、自然と楽しくコミュニケーションが出来るようになりました。

本年度の国内研修は、宮城県仙台市並びに松島を中心とした地域で実施されました。当日は天候にも恵まれ、各班も予定通りに研修を進めることができました。

国内研修

建学の精神を理解

国内研修実行委員長

幼児保育学科2年B組 松下 千夏

本年度の国内研修は、宮城県仙台市並びに松島を中心とした地域で実施されました。当日は天候にも恵まれ、各班も予定通りに研修を進めることができました。

研修当日、各学科それぞれがテーマに沿って研修を行うことができました。研修を通して、新たな体験、発見をすることができ、これまで学んできた建学の精神の理解をさらに深めることができました。

9月9日(土)・10日(日)快晴のもと、第20回「五峯祭」が挙行された。「Create」のテーマのもと、今年も2000人を超える来場者を迎えることができた。

また、五峯祭に欠かすことのできない伊奈町備前太鼓公演、保護者会からは体験コーナーやバザーに加え、一貫部保護者によるフェアトレード製品の販売が行われ、大盛況の2日間であった。

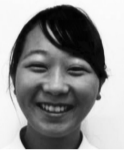


マスコットの「伊奈ローズちゃん」

短期大学学友会活動報告

人との繋がりが大切
会長 稲葉美乃里

幼児保育学科2年B組



私は、昨年度の学友会の活動を通して、もっと違う活動を行いたい、去年実現できなかった活動を成し遂げたいと考え、会長に立候補しました。その際に、他の学友会メンバーの協力や後押しがあったおかげで、会長になることができました。その時、自分ひとりの力ではとても弱く、学友会を通じてこの学校をより良くしていくことは、周りの人が協力してくれるからこそできることなのだと思ってきました。その為、周りの人の信頼に応えられるよう、またそのことを忘れないようにしていくためには、もっとたくさんの人と繋がることが大切だと考えました。今年度は学生や先生方などの周りの人と関わられるようみんなで楽しめる活動を行いたいと考えています。

私は、昨年度まで国際学院短期大学で学友会の副会長としていた友人のお手伝いを行っていました。そのために活動することだと思

たので、学生が充実した学校生活を過ごせるよう、学友会が運営をし、学校生活の息抜きの一つとして行いたいと考えています。

卒業まで残り少ない日々ですが、やり残したことや悔いがないように、私たちができる様々なことに取組んでいきたいです。



学長を囲んで(学友会役員)



大宮こども夏祭り広場

次に、「大宮こども夏祭りひろば」では、学友会で参加の呼びかけを行い、前期期末試験直前なのにもしっかりと大勢の学生が参加してくれました。それぞれ絵本の読み聞かせや受付、ミニゲームの運営の手伝いを行ったりするなど地域の方たちとたくさんふれあいました。他大学や他校に比べて人数が少ない中でも、自分たちができることを行

ってくれたり、手が足りていないところを見つけると学科に関係なく、手を貸している姿が見受けられたりし、学生の思いやりの心を感じることができました。今後はまず、五峯祭で同窓会コーナの手伝いを行う予定です。同窓会コーナ

の設置を担当の教員と話し合いながら行い、来てくれる子ども達が楽しめるよう、卒業生の方々と共に運営を行っていきたくと考えています。

また、両学科の学生や教職員の皆さんとのふれあいを増やすために球技大会を行いたいと思っています。身体を動かすことが好きな

自ら行動し悔いのない活動を

よりよい学校生活に

副会長 細田 幸汰
専攻科健康栄養専攻1年



具体的な活動としては、まず体育大会で学友会主催企画として、オリンピック・パラリンピックO×ゲ

のこともあり、今年度より専攻科に入り、学友会副会長として活動をしてい

ま、学生生活をより良くすることに、短期大学で経験した2年間でどのようなことが大変だったか、不便だったかという

今後は、学友会を中心とした学生の活動はもちろ

国際学院中学校高等学校の一大イベントである、第20回五峯祭が9月9日から10日の2日間にわたり行

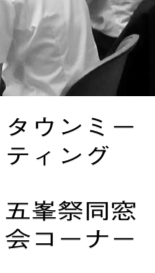
作品を作成し、まるで世界の旅行にきた気分浸っていた。私たちが生徒会は6月から

特に世界地図はIFWでも使うことが出来るように五峯祭実行委員会の方に協力して頂きながら、生徒会役員としては花紙の作成や貼

「五峯祭反省会」を通して反省点も見つけられました。3年生は、役割分担ができていなかった、1、2年生では計画的に進めることが出来な

の最中に劇を取り入れるなど、工夫をしていました。3年目の五峯祭では、問題解決のためにクラス全員が協力して1つの目標に向かうことのできた行事となり、自分たちの成長のあと

も見ることもできました。中学校全体では、2号館1階のオープンスペースにある窓ガラスにステンドガラスを制作しました。2号館ロビーは、窓が大きく、自分たちの学年の出し物もあり、なかなか作業が進みませんでした。全学年で声を掛け合い、協力して取り



今回、私が学友会副会長になって一番考えていることは、学生生活をより良くするにはどのようなことをするべきなのか、また、学生と社会との関りの輪を広げるにはどうすればいいのか、ということを抱負として日々活動を行って

大宮こども夏祭りひろばボランティアでは、地域の方々との交流、そして他学校の学生とコミュニケーションをと

今後は、学友会を中心とした学生の活動はもちろ

国際学院中学校高等学校の一大イベントである、第20回五峯祭が9月9日から10日の2日間にわたり行

作品を作成し、まるで世界の旅行にきた気分浸っていた。私たちが生徒会は6月から

特に世界地図はIFWでも使うことが出来るように五峯祭実行委員会の方に協力して頂きながら、生徒会役員としては花紙の作成や貼

「五峯祭反省会」を通して反省点も見つけられました。3年生は、役割分担ができていなかった、1、2年生では計画的に進めることが出来な

の最中に劇を取り入れるなど、工夫をしていました。3年目の五峯祭では、問題解決のためにクラス全員が協力して1つの目標に向かうことのできた行事となり、自分たちの成長のあと

も見ることもできました。中学校全体では、2号館1階のオープンスペースにある窓ガラスにステンドガラスを制作しました。2号館ロビーは、窓が大きく、自分たちの学年の出し物もあり、なかなか作業が進みませんでした。全学年で声を掛け合い、協力して取り



今回、私が学友会副会長になって一番考えていることは、学生生活をより良くするにはどのようなことをするべきなのか、また、学生と社会との関りの輪を広げるにはどうすればいいのか、ということを抱負として日々活動を行って

大宮こども夏祭りひろばボランティアでは、地域の方々との交流、そして他学校の学生とコミュニケーションをと

今後は、学友会を中心とした学生の活動はもちろ

国際学院中学校高等学校の一大イベントである、第20回五峯祭が9月9日から10日の2日間にわたり行

作品を作成し、まるで世界の旅行にきた気分浸っていた。私たちが生徒会は6月から

特に世界地図はIFWでも使うことが出来るように五峯祭実行委員会の方に協力して頂きながら、生徒会役員としては花紙の作成や貼

「五峯祭反省会」を通して反省点も見つけられました。3年生は、役割分担ができていなかった、1、2年生では計画的に進めることが出来な

の最中に劇を取り入れるなど、工夫をしていました。3年目の五峯祭では、問題解決のためにクラス全員が協力して1つの目標に向かうことのできた行事となり、自分たちの成長のあと

も見ることもできました。中学校全体では、2号館1階のオープンスペースにある窓ガラスにステンドガラスを制作しました。2号館ロビーは、窓が大きく、自分たちの学年の出し物もあり、なかなか作業が進みませんでした。全学年で声を掛け合い、協力して取り



今回、私が学友会副会長になって一番考えていることは、学生生活をより良くするにはどのようなことをするべきなのか、また、学生と社会との関りの輪を広げるにはどうすればいいのか、ということを抱負として日々活動を行って

大宮こども夏祭りひろばボランティアでは、地域の方々との交流、そして他学校の学生とコミュニケーションをと

今後は、学友会を中心とした学生の活動はもちろ

国際学院中学校高等学校の一大イベントである、第20回五峯祭が9月9日から10日の2日間にわたり行

作品を作成し、まるで世界の旅行にきた気分浸っていた。私たちが生徒会は6月から

特に世界地図はIFWでも使うことが出来るように五峯祭実行委員会の方に協力して頂きながら、生徒会役員としては花紙の作成や貼

「五峯祭反省会」を通して反省点も見つけられました。3年生は、役割分担ができていなかった、1、2年生では計画的に進めることが出来な

の最中に劇を取り入れるなど、工夫をしていました。3年目の五峯祭では、問題解決のためにクラス全員が協力して1つの目標に向かうことのできた行事となり、自分たちの成長のあと

も見ることもできました。中学校全体では、2号館1階のオープンスペースにある窓ガラスにステンドガラスを制作しました。2号館ロビーは、窓が大きく、自分たちの学年の出し物もあり、なかなか作業が進みませんでした。全学年で声を掛け合い、協力して取り

反省点を今後の糧に
高校生徒会長 高橋健一郎

3年E組 高橋健一郎

国際学院中学校高等学校の一大イベントである、第20回五峯祭が9月9日から10日の2日間にわたり行

作品を作成し、まるで世界の旅行にきた気分浸っていた。私たちが生徒会は6月から

特に世界地図はIFWでも使うことが出来るように五峯祭実行委員会の方に協力して頂きながら、生徒会役員としては花紙の作成や貼

「五峯祭反省会」を通して反省点も見つけられました。3年生は、役割分担ができていなかった、1、2年生では計画的に進めることが出来な

の最中に劇を取り入れるなど、工夫をしていました。3年目の五峯祭では、問題解決のためにクラス全員が協力して1つの目標に向かうことのできた行事となり、自分たちの成長のあと

特に世界地図はIFWでも使うことが出来るように五峯祭実行委員会の方に協力して頂きながら、生徒会役員としては花紙の作成や貼

「五峯祭反省会」を通して反省点も見つけられました。3年生は、役割分担ができていなかった、1、2年生では計画的に進めることが出来な

の最中に劇を取り入れるなど、工夫をしていました。3年目の五峯祭では、問題解決のためにクラス全員が協力して1つの目標に向かうことのできた行事となり、自分たちの成長のあと

も見ることもできました。中学校全体では、2号館1階のオープンスペースにある窓ガラスにステンドガラスを制作しました。2号館ロビーは、窓が大きく、自分たちの学年の出し物もあり、なかなか作業が進みませんでした。全学年で声を掛け合い、協力して取り

ることに「赤ずきん」をもとにして、自分たちでアレンジを加えました。よりよい劇にするため、クラス全員での話し合いを積極的に行い、アイデアを出し合っている姿が印象的でした。お客さんが参加できるゲームや今流行っている芸人やアニメ、音楽を取り入れ、笑いと感動のある劇を披露することができました。

今年度の五峯祭は、各学年が協力し合い素晴らしいものとすることができました。1年生は、IFWについての紹介とミサンガ・缶バッジ作りをしました。外国の特徴を模造紙に丁寧にまとめ、説明していました。細かいこともしっかり調べ

3年生は、創作映画を上映しました。場面ごとに撮影をしてCGを加えながら編集しました。しかし、1日目に機材トラブルが発生し、クラス全員でそれをカバーする必要が出てきたため、急ぎ2日目は映画

「五峯祭反省会」を通して反省点も見つけられました。3年生は、役割分担ができていなかった、1、2年生では計画的に進めることが出来な

の最中に劇を取り入れるなど、工夫をしていました。3年目の五峯祭では、問題解決のためにクラス全員が協力して1つの目標に向かうことのできた行事となり、自分たちの成長のあと

も見ることもできました。中学校全体では、2号館1階のオープンスペースにある窓ガラスにステンドガラスを制作しました。2号館ロビーは、窓が大きく、自分たちの学年の出し物もあり、なかなか作業が進みませんでした。全学年で声を掛け合い、協力して取り

今年度の五峯祭は、各学年が協力し合い素晴らしいものとすることができました。1年生は、IFWについての紹介とミサンガ・缶バッジ作りをしました。外国の特徴を模造紙に丁寧にまとめ、説明していました。細かいこともしっかり調べ

3年生は、創作映画を上映しました。場面ごとに撮影をしてCGを加えながら編集しました。しかし、1日目に機材トラブルが発生し、クラス全員でそれをカバーする必要が出てきたため、急ぎ2日目は映画

「五峯祭反省会」を通して反省点も見つけられました。3年生は、役割分担ができていなかった、1、2年生では計画的に進めることが出来な

の最中に劇を取り入れるなど、工夫をしていました。3年目の五峯祭では、問題解決のためにクラス全員が協力して1つの目標に向かうことのできた行事となり、自分たちの成長のあと

も見ることもできました。中学校全体では、2号館1階のオープンスペースにある窓ガラスにステンドガラスを制作しました。2号館ロビーは、窓が大きく、自分たちの学年の出し物もあり、なかなか作業が進みませんでした。全学年で声を掛け合い、協力して取り

今年度の五峯祭は、各学年が協力し合い素晴らしいものとすることができました。1年生は、IFWについての紹介とミサンガ・缶バッジ作りをしました。外国の特徴を模造紙に丁寧にまとめ、説明していました。細かいこともしっかり調べ

3年生は、創作映画を上映しました。場面ごとに撮影をしてCGを加えながら編集しました。しかし、1日目に機材トラブルが発生し、クラス全員でそれをカバーする必要が出てきたため、急ぎ2日目は映画

「五峯祭反省会」を通して反省点も見つけられました。3年生は、役割分担ができていなかった、1、2年生では計画的に進めることが出来な

の最中に劇を取り入れるなど、工夫をしていました。3年目の五峯祭では、問題解決のためにクラス全員が協力して1つの目標に向かうことのできた行事となり、自分たちの成長のあと

も見ることもできました。中学校全体では、2号館1階のオープンスペースにある窓ガラスにステンドガラスを制作しました。2号館ロビーは、窓が大きく、自分たちの学年の出し物もあり、なかなか作業が進みませんでした。全学年で声を掛け合い、協力して取り

今年度の五峯祭は、各学年が協力し合い素晴らしいものとすることができました。1年生は、IFWについての紹介とミサンガ・缶バッジ作りをしました。外国の特徴を模造紙に丁寧にまとめ、説明していました。細かいこともしっかり調べ

3年生は、創作映画を上映しました。場面ごとに撮影をしてCGを加えながら編集しました。しかし、1日目に機材トラブルが発生し、クラス全員でそれをカバーする必要が出てきたため、急ぎ2日目は映画

「五峯祭反省会」を通して反省点も見つけられました。3年生は、役割分担ができていなかった、1、2年生では計画的に進めることが出来な

の最中に劇を取り入れるなど、工夫をしていました。3年目の五峯祭では、問題解決のためにクラス全員が協力して1つの目標に向かうことのできた行事となり、自分たちの成長のあと

も見ることもできました。中学校全体では、2号館1階のオープンスペースにある窓ガラスにステンドガラスを制作しました。2号館ロビーは、窓が大きく、自分たちの学年の出し物もあり、なかなか作業が進みませんでした。全学年で声を掛け合い、協力して取り

今年度の五峯祭は、各学年が協力し合い素晴らしいものとすることができました。1年生は、IFWについての紹介とミサンガ・缶バッジ作りをしました。外国の特徴を模造紙に丁寧にまとめ、説明していました。細かいこともしっかり調べ

3年生は、創作映画を上映しました。場面ごとに撮影をしてCGを加えながら編集しました。しかし、1日目に機材トラブルが発生し、クラス全員でそれをカバーする必要が出てきたため、急ぎ2日目は映画

「五峯祭反省会」を通して反省点も見つけられました。3年生は、役割分担ができていなかった、1、2年生では計画的に進めることが出来な

の最中に劇を取り入れるなど、工夫をしていました。3年目の五峯祭では、問題解決のためにクラス全員が協力して1つの目標に向かうことのできた行事となり、自分たちの成長のあと

も見ることもできました。中学校全体では、2号館1階のオープンスペースにある窓ガラスにステンドガラスを制作しました。2号館ロビーは、窓が大きく、自分たちの学年の出し物もあり、なかなか作業が進みませんでした。全学年で声を掛け合い、協力して取り

今年度の五峯祭は、各学年が協力し合い素晴らしいものとすることができました。1年生は、IFWについての紹介とミサンガ・缶バッジ作りをしました。外国の特徴を模造紙に丁寧にまとめ、説明していました。細かいこともしっかり調べ

3年生は、創作映画を上映しました。場面ごとに撮影をしてCGを加えながら編集しました。しかし、1日目に機材トラブルが発生し、クラス全員でそれをカバーする必要が出てきたため、急ぎ2日目は映画

「五峯祭反省会」を通して反省点も見つけられました。3年生は、役割分担ができていなかった、1、2年生では計画的に進めることが出来な

の最中に劇を取り入れるなど、工夫をしていました。3年目の五峯祭では、問題解決のためにクラス全員が協力して1つの目標に向かうことのできた行事となり、自分たちの成長のあと

も見ることもできました。中学校全体では、2号館1階のオープンスペースにある窓ガラスにステンドガラスを制作しました。2号館ロビーは、窓が大きく、自分たちの学年の出し物もあり、なかなか作業が進みませんでした。全学年で声を掛け合い、協力して取り

今年度の五峯祭は、各学年が協力し合い素晴らしいものとすることができました。1年生は、IFWについての紹介とミサンガ・缶バッジ作りをしました。外国の特徴を模造紙に丁寧にまとめ、説明していました。細かいこともしっかり調べ

3年生は、創作映画を上映しました。場面ごとに撮影をしてCGを加えながら編集しました。しかし、1日目に機材トラブルが発生し、クラス全員でそれをカバーする必要が出てきたため、急ぎ2日目は映画

「五峯祭反省会」を通して反省点も見つけられました。3年生は、役割分担ができていなかった、1、2年生では計画的に進めることが出来な

の最中に劇を取り入れるなど、工夫をしていました。3年目の五峯祭では、問題解決のためにクラス全員が協力して1つの目標に向かうことのできた行事となり、自分たちの成長のあと

も見ることもできました。中学校全体では、2号館1階のオープンスペースにある窓ガラスにステンドガラスを制作しました。2号館ロビーは、窓が大きく、自分たちの学年の出し物もあり、なかなか作業が進みませんでした。全学年で声を掛け合い、協力して取り

今年度の五峯祭は、各学年が協力し合い素晴らしいものとすることができました。1年生は、IFWについての紹介とミサンガ・缶バッジ作りをしました。外国の特徴を模造紙に丁寧にまとめ、説明していました。細かいこともしっかり調べ

3年生は、創作映画を上映しました。場面ごとに撮影をしてCGを加えながら編集しました。しかし、1日目に機材トラブルが発生し、クラス全員でそれをカバーする必要が出てきたため、急ぎ2日目は映画

「五峯祭反省会」を通して反省点も見つけられました。3年生は、役割分担ができていなかった、1、2年生では計画的に進めることが出来な

の最中に劇を取り入れるなど、工夫をしていました。3年目の五峯祭では、問題解決のためにクラス全員が協力して1つの目標に向かうことのできた行事となり、自分たちの成長のあと

も見ることもできました。中学校全体では、2号館1階のオープンスペースにある窓ガラスにステンドガラスを制作しました。2号館ロビーは、窓が大きく、自分たちの学年の出し物もあり、なかなか作業が進みませんでした。全学年で声を掛け合い、協力して取り



第20回五峯祭

笑いと音楽、パフォーマンスで多くの感動!



ミサンガづくり

今年度の五峯祭は、各学年が協力し合い素晴らしいものとすることができました。1年生は、IFWについての紹介とミサンガ・缶バッジ作りをしました。外国の特徴を模造紙に丁寧にまとめ、説明していました。細かいこともしっかり調べ

3年生は、創作映画を上映しました。場面ごとに撮影をしてCGを加えながら編集しました。しかし、1日目に機材トラブルが発生し、クラス全員でそれをカバーする必要が出てきたため、急ぎ2日目は映画

「五峯祭反省会」を通して反省点も見つけられました。3年生は、役割分担ができていなかった、1、2年生では計画的に進めることが出来な

の最中に劇を取り入れるなど、工夫をしていました。3年目の五峯祭では、問題解決のためにクラス全員が協力して1つの目標に向かうことのできた行事となり、自分たちの成長のあと



第20回五峯祭

笑いと音楽、パフォーマンスで多くの感動!



ミサンガづくり

今年度の五峯祭は、各学年が協力し合い素晴らしいものとすることができました。1年生は、IFWについての紹介とミサンガ・缶バッジ作りをしました。外国の特徴を模造紙に丁寧にまとめ、説明していました。細かいこともしっかり調べ

3年生は、創作映画を上映しました。場面ごとに撮影をしてCGを加えながら編集しました。しかし、1日目に機材トラブルが発生し、クラス全員でそれをカバーする必要が出てきたため、急ぎ2日目は映画

「五峯祭反省会」を通して反省点も見つけられました。3年生は、役割分担ができていなかった、1、2年生では計画的に進めることが出来な

の最中に劇を取り入れるなど、工夫をしていました。3年目の五峯祭では、問題解決のためにクラス全員が協力して1つの目標に向かうことのできた行事となり、自分たちの成長のあと



ステンドガラス制作

保育者になるために 大切な時間管理とメモの習慣

保育現場に生かす特技磨く 結婚後は地域社会で活躍を



「学ぶ心を大切に」と幼児保育科卒業生3姉妹

幼児保育学科卒業生 3姉妹からのメッセージ

右から
平成18年度卒業：増田（旧姓：権田）敦子
平成21年度卒業：古木（旧姓：権田）尚子
平成22年度卒業：川上（旧姓：権田）陽子

卒業生の近況報告

国際学院高等学校13期生

早稲田大学教育学部
社会科地理歴史専修

4年 須藤 圭祐



私が母校、国際学院高等学校に在学中に学んだことは多くあるが、そのなかでも、学ぶこと、知識を得ることが楽しさを知ることができたことが一番の学びである。学ぶことによつて多くのことを知ると、多くの知らないことが現れる。このことの奥深さに気づくことができたのも高校に在学中のこと

教職の道を目指す

卒業後1年間、浪人生活を送った。浪人時代には、諦めずに努力を続けることができれば、必ず結果は出ることを実体験することができ、そして念願であった早稲田大学教育学部に入ることができた。大学生活では、多くの様々な知識を学ぶために多くの講義を履修し、そこで興味を持った分野や専攻をしている日本近現代史の書を多く読み、自らの歴史像を持つことができた。また多くのコミュニティを作り、人脈を広げるため、サークル活動等に積極的に取り組んだ。そして将来の自らのビジョンを実現する

学び続ける姿勢忘れずに

ために、教職課程を履修し、教科、科目の教授方法や教育理論などを学んだ。そして今年度、母校である国際学院高等学校で教育実習を行わせていただいた。教育実習では教職課程で学んだ理論を実践的に取り組む貴重な機会であり、ここで多くの学びを得ることができた。大学卒業後は、教職の道に進んでいこうと考えている。そこで高校生活・大学生活を通じて、得られた学び続ける姿勢を忘れずに、未来の生徒に学ぶこと、知識を得ることの楽しさや学び続けることの重要性を伝えられるように努力を続けていきたい。

ベスト ブック

理系を目指す学生にお薦め



『天文対話』は、ガリレオ・ガリレイがコペルニクスの地動説を解明し、その理論を一般民衆にも理解できるように、新しい科学方法論を駆使して書いた不朽の名著です。彼が旧来のスコラ学体系の様々な難関・障壁を、いかにして突破したかが如実に示された近代科学の黎明を告げる大著で、科学革命の宣言書であるとも言われています。実は私もこの『天文対話』を高校生の時、物

国際学院中学校高等学校副校長 井川 隆
国際学院埼玉短期大学専任講師

ガリレオ・ガリレイ（著）／青木靖三（翻訳）
『天文対話』上・下
岩波文庫

理の先生から紹介されて知りました。ガリレオは皆さんも良くご存じでしょう。中世の時代、天動説が当たり前の時代が、16世紀になってコペルニクスにより、太陽が中心で地球やその他の惑星が太陽の周りを回っていると地動説

新しい理論を生み出した

「科学の父」ガリレオ・ガリレイ

その後も自分で観測、研究を続けることで地動説が真理であると確証を得て、ついに、自分で発見したこの理論を天文学書として1632年に出版したので。この時代ラ



になりました。話の中身は、3人の対話という形で進められます。地動説を支持する「サルヴィチニ」と天動説を信ずる「シンプリチオ」、および良識的市民「サグレド」

を唱えました。当時、天動説はヨーロッパ全土でキリスト教カソリックの教えでもあり、それに異を唱えることは大変な事でした。その説をガリレオが支持しました。そのため第1次宗教裁判にかけられることにもなりませんが、何とか免れました。

テン語で論文を発表していましたが、あえて公用語であるイタリア語を使い、対話形式にしました。身近で親しみやすく、理解しやすい表現にしたのです。しかし、これが決定的となり、二度目の宗教裁判で終身刑を受けること

です。3人が4日間にわたって地動説か天動説かについて論争します。第1日目は、アリストテレス流の天体論を批判します。第2日目は、地上諸現象の原因を検討する内容、第3日目は、望遠鏡で見た天界現象で惑星の動きを説明します。第4日目は、潮汐現象について、潮の干満は地球が公転することによって説明できると説きます。そのやりとりが、日常の身近な現象を例にしているの

で、読んでいる人にもイメージが湧き、分かりやすいので、私も自分の考えを交えようのかと期待しながら、わくわくして読んだことを覚えています。

リカレント教育

「大学の開放授業講座」を開講

3科目に5名のシニアが受講

国際学院埼玉短期大学は、埼玉県と提携し県内在住の「学ぶこと」に意欲のある55歳以上の方を対象に、生活の充実や社会参加のきっかけづくりを目的に通常授業を公開する「大学の開放授業講座」（リカレント教育）を実施している。

本学のこの講座への取組は、平成27年度からと県内短期大学では最も早く、初年度に1科目（子ども理解）、翌年度に3科目（子ども理解、「保育・教育相談支援」、「臨床栄養学総論」）、そして3年目となる平成29年度は4科目（子ども理解、「臨床栄養学総論」）と「体育と健康」に各1名

増やす中で実施している。受講者は、本学学生が学ぶ通常授業に加わっての受講であることから各科目共若干名の定員枠となるが、本年度は「子ども理解」に3名、「臨床栄養学総論」に1名と「体育と健康」に各1名

保育の現場では常に子どもたちの明るい声と天使の笑顔に溢れています。子ども一人ひとりの個性を大切に、伸びしろを最大限に引き出していけるような保育者になることを目指して、皆さんも2年間の学び大切に真剣に取

り組んでください。そして、その中で自分の特技を見つけ、保育現場で活かせるように特技を磨いて下さい。国際学院で学んだことを礎に地域社会での活躍をお祈り致しております。

となり、3科目に5名のシニアが在学生と机を並べて受講している。開設初年度から3年連続で授業科目「子ども理解」を担当する幼児保育学科の森下剛教授は、「シニアの皆さんは、どなたも学習意欲が高く、これまでのさまざまな分野での社会経験をベースとした質問をしてくださる。高校を卒業して本学に入学してきた学生たちにとっては、人生の先輩として、模範的な学習者として大変良い影響を与えていると思います。今後も担当する授業で是非とも受け入れていきたいと思っております」と語っていた。

本年度は、「大学の開放授業講座」として、埼玉県全体で21大学、230科目の授業が後期分として開放されているが、本学も生涯学習、特に高齢者の学びの推進に公開講座等と共にその一端を担っている。